

静岡 コロナ禍でも育む 恩師と南米剣士との絆

文・写真提供 安齋雄輝 (静岡県学校教員)

この原稿を書いているときは、全国10都道府県に緊急事態宣言発令中で、もしかしたら満足に稽古ができていない同志の方々がいらっしゃるかもかもしれません。幸い私が住む静岡県は、緊急事態宣言対象

「剣日 Forum」は読者の皆さまからの大会結果やイベントレポート等を掲載するコーナーです。応募のあて先は98ページに記載しています。(編集部)



ニコラスさんとセバスチャンさんとともに、洗心岩倉道場にて

ことが当たり前ではなかったと、それでも試行錯誤しながら剣の道を進む方法はないものかと、今まで以上に深く考えた1年でした。



福嶋克尚教士八段

今回この原稿を書くにあたり、このコロナ禍の1年を通して行なってきた恩師の活動をご紹介させていただきます。恩師は、私が小学校時代から師事する、

本学生の剣道を学ぶため、私の勤務先の高校で合宿をすることにしました。その人柄や剣道に対する姿勢も素晴らしいので、

り、今は剣道の稽古ができていない。それぞれがそれぞれの家でトレーニングや素振りをしている、日本のみんなは元気か」とのことでした。当時は日本でも部活動や稽古は自粛されており、まったく稽古できていない状況でした。何回かお互いの近況を交換しあった後、私の勤務校でオンライン授業をしていることを紹介し、オンライン剣道セミナーをすることにしました。

古に励まなければならぬと思うようになりました。

剣日 Forum



オンライン稽古の様子

その後、私は部活動の指導が再開されると共に参加はできなくなりましたが、福嶋先生と南米の剣士たちとのオンライン稽古は、1〜2週間に一度、毎週のように行なわれています。

このセミナーでは、3泊4日の期間中にいろいろなことを行なう予定です。田舎の助け合いのよう

た。テーマは、今、活動が制限されている「コロナ」とは何か、またどう立ち向かうべきなのかから「コロナと剣道」となった。

き、参加者がより対面での開催に近い形での講演を聞けるよう心がけた。講演では「ウイルスの細菌の違い」「マスクはどの程度有効か」ということから始まり、「一人あたり何人に向つすのか」といった新型コロナウイルスについての基本的な知識だけでなく、「剣道における飛沫飛散検査——剣道における飛沫を防ぐには」といった剣道ならではの話もあった。

初めからできないと決めつけず 全国教育系大学ゼミナールをオンラインで実施

令和3年2月20日(土)、21日(日) 主催 全国教育系大学剣道連盟 文・資料提供 岡井佑樹 (全国教育系大学剣道連盟大会実行委員長・大阪教育大学)

教育者を目指す15大学の教育系大学剣道部員220名、講師として15名の大学 高校教員が参加し、令和3年2月20日、21日に「第53回全国教育系大学剣道ゼミナール」がリモートにより開催された。

実施の決断 令和2年2月に第52回全国教育系大学剣道ゼミナール 学生剣道大会が終了した頃は、第53回も例年通り国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されるものだと思いがちな引継ぎが行なわれた。しかし徐々に日本国内の新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、緊急事態宣言が発令され、ついに外出 活動自粛が行なわれた。学生剣道界でも令和2年度の大会は軒並み中止となった。このことを踏まえ、令和2年10月の理事会で対面での開催は厳しく、大会の中止はやむを得ないがゼミナールのみをオンラインで行なうのか、それともすべて中止するか検討された。中止になると学生組織が弱体化すること、一方で、オンラインにより外部に発信が可能になると考え、オンライン開催となっ



本部(大阪教育大学)実行委員 (写真☆から☆人目が筆者)

た。このゼミナールでは、3泊4日の期間中にいろいろなことを行なう予定です。田舎の助け合いのよう